

# 第50回全国和裁研修会

## 初のウェブ開催 2000人超受講

日本和裁士会は10月31日、第50回全国和裁研修会をオンライン配信により開催した。新型コロナウイルス禍で昨年は延期し、今期に入っても収束の見通しが不透明だった中で開催可能な方法としてウェブ活用を決め、半世紀の歴史で初めて試みた。プログラムが急ぎよ変更になったが、受講を募ったところ、当初の想定を上回る2009名の申し込みがあり、成功裡に終えることができた。



井鈴枝支部長が挨拶。同支部は1962年に設立され、ピーク時には90名以上いた会員も現在は16名になったが、小中高校への出前授業など和裁を生かした活動を続けている。「学ぶだけでなくアクションを起こそう」と

### ① 主管ブロック・支部からのメッセージ

主管は延期となった昨年と同様、中国・四国ブロック・山口県支部が担当した。トップバッターを務め、山口県支部の藤

### ② コロナ禍で頑張る！

#### ～元気のジュミンはいれだ

竹原信夫氏(産業情報化新聞社代表取締役)

「日本一明るい経済新聞」の編集長、竹原信夫氏が登壇。コロナ禍で暗いニュースが多い中、「やはり明るい話が一番大事」と元気で成果を出している中小零細企業の事例をふんだんに紹介した。

感染しないためには免疫力が大切。正しい食事、運動を養うが、会社に置き換えれば社会に役立つお金の稼ぎ方(栄養・収益・組織としての体質(運動改善)、近江商人の「三



「あ」：どんな状況下でも「あかるく」。あかるい人に会うと、人はほっとする。お客もこの人なら大丈夫と思う。苦しいときこそニコッと笑おう。「い」：「意思」を強く持つ。右肩上がり一辺倒の成長はなく、上げれば下がり、また上がってスパイラル(らせん)状に成長するから会社は強くなる。谷へ向かい始め

「う」：運が良かったからできたではなく、「運が良いと思いつく」こと。例えは足の骨を折っても、足の骨だけで済んだ、自分は運が良いと思う。プラス志向かマイナス思考かの二者択一ではなく、全部プラス志向に思い込みに幸福を引き寄せる。「え」：縁を大切にすればよいのでは駄目。他人が困ったら助ける、縁を大切にすれば必ず返してくれる。「お」：大きな夢を持つ。大きな夢を語る人は、みんな元気です!

### ③ 新しい着物市場の幕開けとファン作り

木下勝博氏(木下着物研究所代表)

木下氏はITベンチャーとしてキャリアを始め、友人の博多織元勤めて初めてきものに触れた。きものファンによるコミュニティにも参加し、自ら着るようになった。その後、きもの販売店を都内に新店・運営し、2015年に独立、365日きもので生活する中から生まれたオリジナル商品を自社店舗や百貨店催事などで展開してきた。



しかし、新型コロナウイルスの感染拡大、緊急事態宣言により来店客がなくな

り、催事も相次いで中止に。顧客との接点を作るため、夫婦で昨年1月からきもの着方や所作などを伝えるYouTube動画を配信する一方、そのための帯を販売する場としてネット販売をスタートさせた。今年9月現在でYouTubeの登録者は1万人を超える人気チャンネルとなっている。毎週金曜夜にはライブショピング番組も配信し、YouTubeとの2本立てで顧客を作っている。

顧客は「以前は実店舗とネットを使い分けていたが、コロナ禍で大きく変わった」と木下氏。オンラインで双方向のやりとりができる環境になり、「場所が関係なくなった」。来店前にオンラインでお客様との関係を構築するために、お客は主体的に購入し、購入後はSNSで発信・共有する流れができていった。市場は「買って着ない」から「着るために買う」へと変わり、「お気に入りにはお金を使うが、その他はコスト重視」の傾向が顕著という。

### ④ 人を育て、技術をつなぐ

#### ～和裁競技三冠への道

石田昭博氏・荒木啓衣さん(石田和裁)

プログラム4は、兵庫県支部長で石田和裁代表の石田昭博氏に齊藤雅彦副会長が人材育成のポイントを聞いた。

同和裁所では技術指導はもとより、精神教育も重視。毎朝の朝礼などを通じ、技術を使う「人」の育成に取り組んできた。その中で和裁士会の



全国和裁技術コンクールや、技能五輪や技能グランプリといった競技会で優勝をはじめ優秀な成績を残している。

コンクール、技能五輪、技能グランプリで初めて三冠を達成した弟子の荒木啓衣さんに実技も披露していただいた。オンラインによる録画配信だったが、その丁寧な仕事ぶりに受講者が熱心に見入っている様子が伺えた。

